

Adobe® Illustrator®
Adobe Photoshop®

株式会社 大林組

Adobe Illustratorの活用によって
プレゼンテーション能力を高める株式会社大林組

株式会社 大林組

・1892（明治25年）創業の、日本が世界に誇る総合建設企業。土木・建築の分野で建設業界をリードし、その領域はビル建設から地域・都市・海洋開発にまで多岐に渡り、数々の成果は国内外で高い評価を得ている。主な竣工作品に「大阪ドーム」「関西国際空港旅客ターミナルビル」「東京湾アクアライン」などの他、海外でも「スタジアム・オーストラリア」「プリズペーン・ウォーターフロント・プレース・コンプレックス」などがある

<http://www.obayashi.co.jp/>



株式会社大林組
設計本部インタースペース部
伊藤豪則氏

建築・建設業界におけるクライアントプレゼンテーションは、個々のプロジェクト内容をいかに正確に相手に伝え、理解してもらうかという部分で、極めて重要な役割を担っている。業界大手の株式会社大林組・設計本部インタースペース部は、主としてインテリア、ランドスケープ、ライティングのデザインを担当し、現在ではCG制作なども手がけるプレゼンテーションのクオリティ向上を担う、さまざまな提案資料のビジュアル面構築を扱う部署。ここでAdobe Illustratorが、CADツールと連動しながら、多岐に渡って活用されている。

Adobe Illustratorで再利用

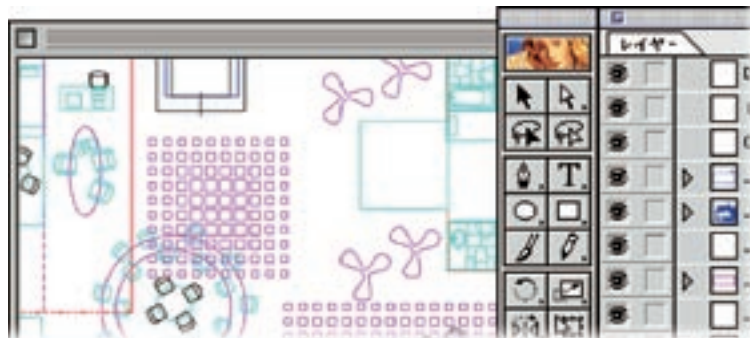
「現在、設計作業はすべてCADシステムで行われていますが、何年前までは手描きの設計図もまだ数多くありました。ですから当時はそれらのコピーやCADの出力物、ワープロ出力した文字など、雑然とした素材を手で切り貼りしながら、プレゼンテーション用の資料を作成していたのです」と語るのは同部・伊藤豪則氏。「しかしDTPの普及とともに、今では意匠設計担当者の多くは、Illustratorを活用し、効率的

にプレゼンテーション資料を作成しています」。「たとえば設計の担当者が専用CADを使って作成した設計データは、Illustratorにコンバートします。そしてCADツールの使用だけでは表現力に乏しい部分を、Illustratorの機能を使ってカバー。プレゼンテーションに使用できるよう手を加えてから、提案書に盛り込んでいきます。Adobe Photoshopも、写真の合成や建築物への陰影付けなど連携活用しています」。

CADとの連動、3Dグラフィックなど、
Adobe Illustratorに寄せる信頼は絶大

伊藤氏の説明によれば、アプリアフト社のIllustratorプラグインであるCAD Gate、CAD Toolsを利用すると、CADで作成したDXF/DWGデータを縮尺設定をした上で、Illustrator上のデータとして読み込むことができる。つまりこれらのプラグインを併用して使うことで、プレゼンテーションに用いるデータや素材作成の生産性が上がっているのだ。

「CAD Gateを使えば、CADデータ上のレイヤーや色をそのまま高精度にIllustratorに変換した上で、パースの床や壁面パターン、グラデーションなどの着色が効果的に行えるようになります



読み込まれたCADデータは、色分けされた状態でレイヤーに分割されるため、部品にパターンやグラデーションを加えていくことができる

す。そこからさらにPhotoshopを使い写真と合成していくことで、建築物などのイメージをより精彩に、クオリティアップしていくことも可能。いっぽうCAD Toolsは、スケール比率を指定しておけばIllustrator上の寸法をミリ単位に計算し直さず、実際の寸法を入力するだけで、そのままCADを扱う感覚で図の作成が行えるのでたいへん便利ですね」。

Illustratorに寄せる信頼はこれだけに留まらない。CADからデータを持ってくるだけでなく、反対にIllustratorで作図したデータを、CADや3Dソフトで利用するケースも多いという。つまり「提案書などのプレゼンテーションにおける作図においてはIllustratorのほうが圧倒的に使いやすい」。

そこでIllustratorで作成した図形を、3ds MAX™などの3Dソフトウェアで立体化したり、CADの部品として使うことにも大いに利用されていると伊藤氏は答える。

「そもそもIllustratorはMacintosh™、Windows® 混在環境で使えますし、データが軽いので、メールに添付して送信し合いながら仕事を分担する、といったワークフローの効率化にも貢献してくれます。またビデオ映像や、マルチメディアを使ったプレゼンテーションを行う場合も、表示能力が高く美しいIllustrator上で、図面を一度表示させ、その画面キャプチャを撮ってから映像プレゼンテーションに使用するケースもあります」。

大事なのは自由度と操作性、そして表現力の高さ

実際に提案書を仕上げていく流れのなかで、IllustratorはCADデータの読み込みだけでなく、Photoshopで手を加えた写真を取り込んだり、キャプションなどのテキスト、グラフ図形を加えるなど、レイアウトも含めた企画書制作の全般において活用されている。その理由を伊藤氏は、Illustratorは操作性、表現力、自由度の3つの点において非常に優れているからと語った。

「特に自由度の高さですね。私たちの業界でクライアントに説明を行う場合、図面上にいくつも矢印などのシンボルを置いて表現したり、グラフを挿入して視覚的に解説したり、導線などの人の流れを説明図で補足したりと、実に細かく、さまざまな要素を1枚の紙の上にもとめ上げていかなければなりません」。

「また企画段階における作業では、クライアントのさまざまな要望に合わせて、色の変更やパ



CADで作成した図面をもとに骨格部分をIllustrator上で読み込んで着色を行い、家具や人物を配置していく。最後に仕上げとしてPhotoshopに読み込み、細かな着色や影付けを行うことで、作品としての完成度を上げる

ターンのバリエーションを増やすといった、突発的な作業も頻繁に発生します。Illustratorで作成しておけば、後からの変更が加えやすく、そういった事態にも臨機応変に対応できます」。

表現力の高さに関しても伊藤氏は、これまでパターンを使ったり、透過の表現を行うにはPhotoshop上で作業していたが、そのような部分でもIllustratorの使用頻度が増え、たとえばガラスなどの表現も現在はIllustratorの透過機能を使い、ビジュアル構築作業が従来に増してスムーズになったと付け加えた。

Adobe Illustrator 10の新しい機能に注目

「ランドスケープにおける表現。これも、使用する樹木などを1種類しか使わないと、どの樹も同じ印象を与え、パターン化された表情に乏しい絵になってしまいます。だからこれからは、人やクルマなどの表現も含め、もっといろいろな種類の表現を使い、イメージ豊かな自然な表現がしたいと思っています。それにそのような樹木や人、クルマなどのデータを全社的に共有できれば、今後さらに生産性も上がるでしょうから」。

「そういった意味でも、Illustrator 10に注目しています。データ駆動型グラフィック機能を活用すれば、いま言った作業はいつそうスムーズになるでしょう。それにCADデータをIllustrator変換すると、これまではどうしてもパスが増え、必然的にデータ容量が大きくなってしまいました。そのような部分もシンボル機能を使えば解決されて、軽くなる。そのぶん作業はさらにスピードアップしていくと思います」。

建築・建設業界でIllustratorの導入が一気に広がったのは、DXF/DWGのデータが直接読み込めるようになった頃からのこと。Illustrator 10以降、さらに将来のバージョンで、CADデータとの親和性が上がっていくことに強い期待感を持っていると伊藤氏は語った。

「今後ますます表現力が高まり、緻密になっていくことで、この業界でもかなりの作業がIllustratorで行えるようになっていくのではないかと思います」。

最も重要な社内資産であるCADデータを生かし、Illustratorの強力なグラフィック機能を活かすことで、プレゼンテーションにおいても、高品質な表現を追究している大林組。同社では現在、下請けの業者や社内間、またクライアントのやりとりなどのネットワーク作業においても、IllustratorからAdobe PDFに書き出したり、他のアプリケーションで作成したデータをPDF変換し、Illustratorに持ってくるといったやりとりが日常化している。

Adobe Illustratorの主な利点

- CADデータとのデータ互換性が高く、データ再利用が可能
- MacOSとWindows間でデータのやりとりがスムーズに行える
- 他のアドビ製品と密接に連携しているのでアプリケーション間で簡単にファイルの移動ができる
- 新機能「データ駆動型のダイナミックグラフィック」により、アートワークのバリエーションを自動的に作成できる
- シンボルを作成することでファイルサイズを小さく抑え、繰り返し使用されるグラフィックをより効率的に管理できる